



## 本間としひろ後援会だより

平成二十七年五月号

五月に入りましたが気温の高い日が続いております。大規模な地震や火山噴火の兆候など、地球規模の変動を連想させられる事の多いこの頃です。さてゴールデンウィークもおわり、農作業は忙しさを増してまいりました。米価はこれからもあまり期待できない状況ですが、農地を守ることはこのすばらしい景色をまもることにつながります。地域のすぐれた環境を後世に残すためにも農業を衰退させないようにみんなががんばりたいものです。

三月議会で、金沢交流施設(公民館)として金沢小学校統合後の校舎(平成二十八年三月以降)を改装するための設計費と調査費の予算が可決されました。金沢公民館は以前から新築を要望してまいりましたが、横手市からの「統合後の中学校か小学校の空き校舎のいずれかを改装して使用する」との諮問を受けて、公民館検討委員会を設けて協議の結果、小学校を公民館にする答申をしています。

現在、横手市では十二月をめどに財産経営推進計画をまとめております。これは今後の人口減少や財源不足に対応するために、現在ある公共施設の半分程度の廃止や統合をめざすものです。金沢公民館は横手市合併前からの課題であります。今まで先送りにされてきた経緯があり、今年度は設計や一部のホールなどを工事する予定です。完成は平成二十八年秋以降の予定です。地域にとりましては待望の施設になりますが、その活用については更に協議を行いながら、地域の核として活用して必要性を強く感じています。

金沢交流施設は多額の改修費を投入されますので、横手市が市北部の拠点として、この地域になにを期待して求めていくのかを示すべきと考えています。例えば「後三年合戦の古戦場跡」として歴史の発掘をしながら、後三年合戦のシンポジウムを金沢交流施設を会場にして定期的に行い、全国に横手市を発信することも考えられます。

その際は、地元の方々との協力で農産物の販売や、お茶の振舞いをして盛り上げることもできます。また、横手市で力を入れていっている農業についても農家所得の向上のために、横手産の農産物の北の直売所にも活用できます。これからの公共施設は、文字通りみんなの施設として、知恵と力を出し合っ地域が元気になるための施設にしていきたいものです。

本間としひろ

